



## 愛川ふれあいの村9月の風景

# 平成26年9月 自然のたより

9月に入り、1日の陽の長さが少しずつ短くなってきています。夕方になると、コオロギやアオマツムシなど『秋虫』の鳴き声が村内のいたるところから聞こえ、秋の風情を感じます。

また、昨年よりも早く木々の紅葉も始まり、日ごとに景色の変化を見ることも楽しみの一つです。



樹皮をかじった跡と動物の毛



脱皮した直後のバッタ



音を奏でるアオマツムシ



蜜を吸うアカタテハ



ヨコツナサシガメの群れ



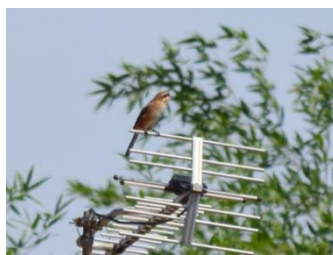
ツバメシジミ



アキアカネ



オオタコソウムシ



アンテナにとまるモズ



ミカドトックリバチ



ハナカミとマミの実



可憐なセンニンソウ



熟してきたマホウの実



キツネノマゴ



食べられたヒメヤブの球果

## ★赤く咲き誇るヒガンバナ★

毒を持っているヒガンバナですが、飢饉の時には人々を助けてくれました。

夏の終わり、秋の始まりの時期。村内のいたる所でヒガンバナが細く赤い花卉を広げ、咲き誇っています。ヒガンバナにはアルカロイドという最悪の場合死に至る毒があるので食用には適していません。しかし天災などで食料が不足したときに間に合わせとして食べる「救荒植物」でした。球根にはでんぷんが多く含まれているため、その部分を食べますが、その前に毒を抜く必要があります。

緊急時までは田んぼや畑の周りに植えてネズミやモグラ除けとしていました。このように昔から自然と上手に付き合い、自然からの恩恵である食べ物大切にしていた事が分かりますね。



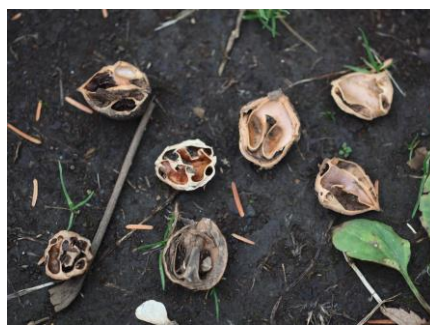
## ★クルミを食べているのはだあれ？★

『実りの秋』と呼ばれる季節。クリやリンゴ、梨など秋を代表する木の実はたくさんあります。村内にオニグルミの木があり、そのクルミをリスが食べに来ています。第3炊事場周辺で足元を見てみると、半分に割れたクルミの殻があちこちに散らばっています。綺麗に半分に割れているものもあればギザギザと割れているものもあります。綺麗に割れている方は大人のリス、反対にギザギザしている方は子どものリス、という風に見分けることができます。ちなみに『オニグルミ』を食べるリスは、日本の固有種である『ニホンリス』のみ！噛む強さは計り知れないですね。

今の時期、リスの食べた証拠（食痕）がたくさんありますので、リスの観察も含め、食痕探しに村へ遊びに来てみてはいかがでしょうか。



▲木の実を食べているリス



▲リスが食べたクルミの殻（食痕）

### ヒガンバナは非常食？！



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子・葉青芳 イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村  
で、検索★

今は缶詰などがありますが缶詰などがなかった時代は

【ヒガンバナの団子】  
取り出したデンプンで作ったお団子。

自然物を上手に活用して  
非常時を  
乗り切っていたのですね。